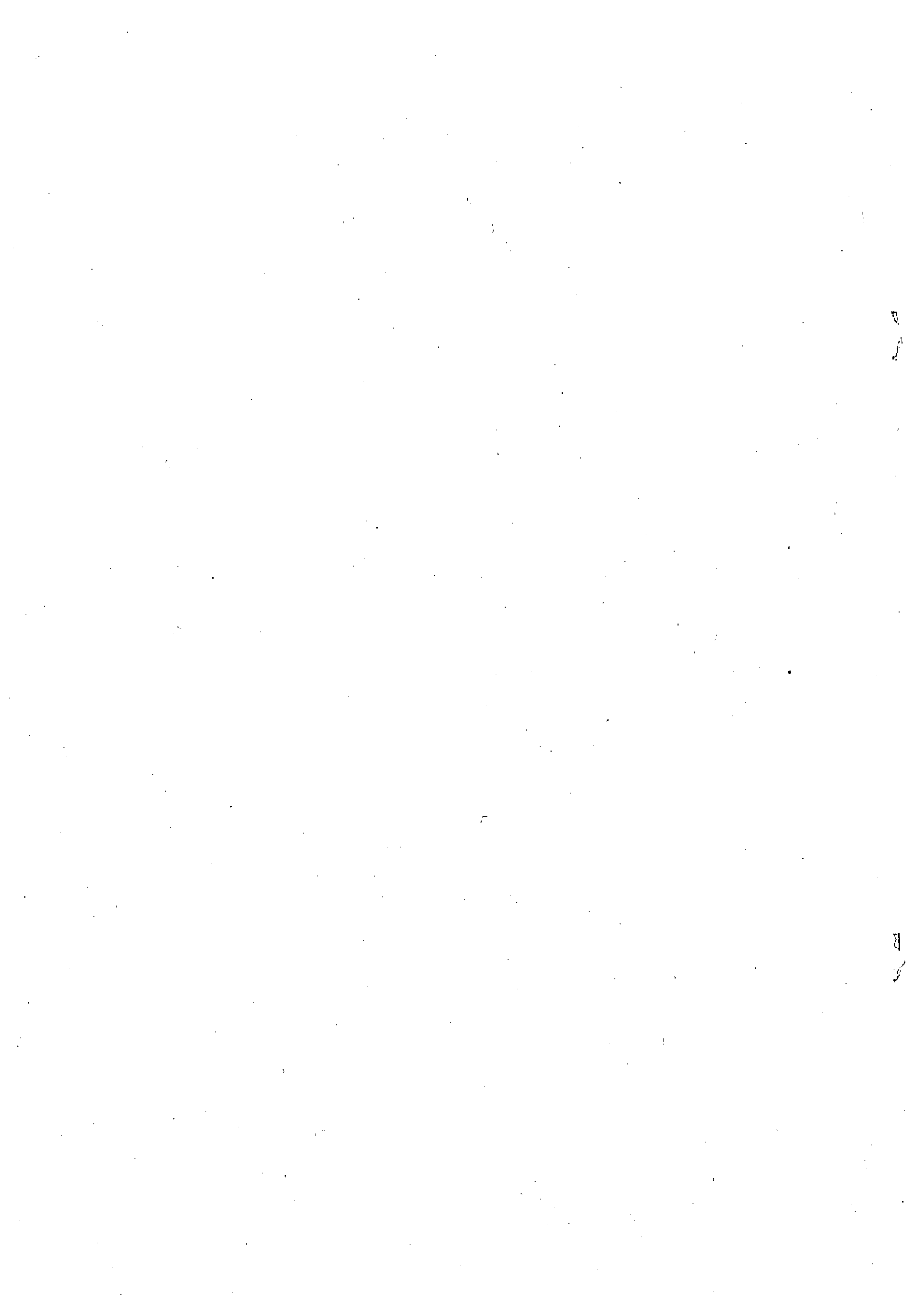


農林水産商工常任委員会提出資料

(平成27年2月16日)

項目	ページ
1 鳥取県農業活力増進プラン（案）策定に向けたパブリックコメントの実施 について	【とっとり農業戦略課】 別冊
2 園芸用パイプハウスの低コスト化の取り組みについて	【生産振興課】 1

農 林 水 産 部



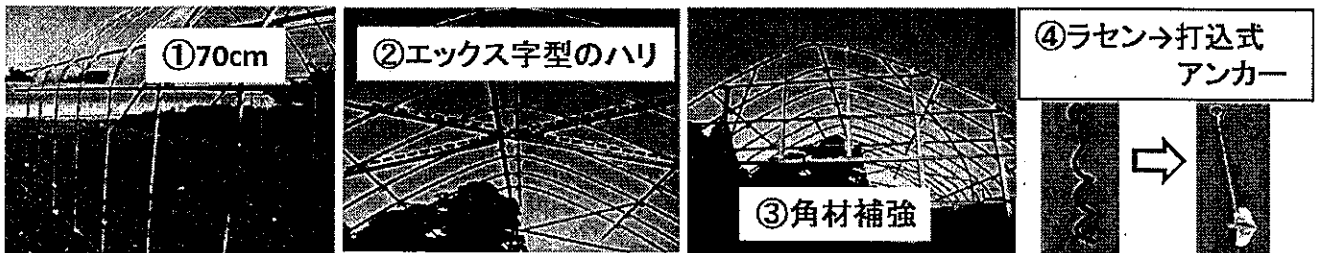
園芸用パイプハウスの低コスト化の取り組みについて

平成27年2月16日
生産振興課

県では平成25年度から先進農家、米子高専や産業技術センター等の協力を得ながら、低コストハウスの検討を進めてきました。従来と同等の強度を有し建設費が安い園芸用パイプハウス（耐雪型と通常型）の基本設計を決定し、県内3カ所にモデルハウスを設置しました。今後は、耐候性の現地実証を行いながら、産地への普及を図る予定です。

1 低コストハウスの基本設計

- ① 近年開発された高強度鋼管（価格は従来品と同程度）を使用し、パイプピッチ幅を従来幅の1.4～1.5倍の70cmに広げて、資材費を削減した。
- ② ハリ補強は従来のT字型から強度が増すX（エックス）字型を採用した。
- ③ 側面は従来の丸パイプから角パイプに変更して構造をシンプルにし、コストを削減した。
- ④ ハウスを固定するため地際部に設置するアンカーは、ラセン式と打込式（抜けにくいが高価格）との併用にして、コストを抑えつつ耐風強度を向上させた。



※中山間地の耐雪型は、①、②、③、④をすべて含んだ仕様

※雪が少ない平坦地の通常型は、①を基本とし、オプションで②、③、④を含む仕様

2 モデルハウスの設置

現在、八頭町（作付予定は水稻育苗＋野菜）、北栄町（すいか＋トマト）、米子市（野菜育苗）にモデルハウスを設置しており、雪や風に対する実用性を検討しながら生産者へのPR拠点として活用する予定である。

3 建設費の比較（試算）

		10aあたり			[参考] 1棟(3a) (6×50m)あたり 農家負担	低コスト化 の目安(%)
		建設費	補助率	農家負担		
耐雪型 (中山間地)	従来	9,500千円	農家負担	4,750千円	1,425千円	100
	低コスト	5,600千円		2,800千円	840千円	60～70
通常型 (平坦地)	従来	6,500千円	1/2の場合	3,250千円	975千円	100
	低コスト	4,600千円		2,300千円	690千円	70～80

※「耐雪型」は、東部の中山間地域を中心に標準的に導入されている雪に強い仕様

「通常型」は大栄地区のすいか栽培で広く普及している資材が比較的少ない仕様

※「従来」の建設費は、補助事業等の実績を参考に試算（規模により変動あり）

※パイプハウスの耐用年数は15年（農業経営指導の手引きより）

4 今後の予定

- ① 年間を通じたハウスの作付モデルや経営シミュレーションを提示しながら、経営的に成り立つハウス導入について普及員やJA職員等を対象とした研修会を開催する。
- ② モデルハウスの現地実証の状況を見極めながら、まずは補助事業によるハウス建設において低コストハウスの推進を図る。
- ③ 県内のハウス施工業者に対して低コストハウスの周知を図るとともに、適正なハウス価格が維持されるよう、農業団体や関連業界への協力を求める。

